

Day4,Day7における胚盤胞移植の有用性

○幸寺 渚, 今井 和美, 北川 晴香, 上田 鈴, 篠原 三佳
 貴志 瑞季, 中西 裕子, 金森 真希, 奥 裕嗣
 医療法人 紀映会 レディースクリニック北浜



[目的]

当院の胚盤胞移植での第一選択はDay5もしくはDay6での良好胚盤胞移植である。

しかし、タイムラプス(Primo Vision[®])で観察すると、発育速度が早くDay4で胚盤胞に発育する胚が存在する。

また、発育速度が遅くDay7で胚盤胞に発育する胚も観察される。

当院では発育状態によりDay7までの観察を行っている。

そこでDay4,Day7で胚盤胞移植を実施し妊娠に至ったので報告する。

[期間]

2013年1月～2015年8月

[対象]

Day4からDay7で胚盤胞となり凍結保存した後、ホルモン補充療法にて単一胚盤胞移行った。

Day4胚盤胞移植群(D4群) 9症例11周期

Day5胚盤胞移植群(D5群) 376症例615周期

Day6胚盤胞移植群(D6群) 102症例131周期

Day7胚盤胞移植群(D7群) 7症例7周期

比較としてDay5,Day6胚盤胞移植群も対象とした。

[方法]

I. D4群とD7群における平均年齢の比較検討

II. D4群からD7群における良好胚移植率の検討

III. D4群からD7群における着床率、臨床的妊娠率と、D4からD7群のうち良好胚盤胞を移植した症例における着床率、臨床妊娠率の比較検討

IV. D4群とD7群における妊娠継続患者に関しては、その経過を調査

良好胚盤胞はGardner分類によるBL3BB以上とし、妊娠判定陽性を着床とした。

[結果]

I. D4群における平均年齢33±3.0歳、D7群における平均年齢36±5.5歳であった。両群における有意な差は認められなかった。

II. 症例あたりの良好胚盤胞移植率はD4群100%(11/11), D5群95.8%(589/615),D6群86.3%(113/131), D7群42.9%(3/7)であった。(図1)D4群においては全て良好胚盤胞での移植が可能であったが、D7群ではD4群と比較すると良好胚盤胞での移植は低い傾向にあった。

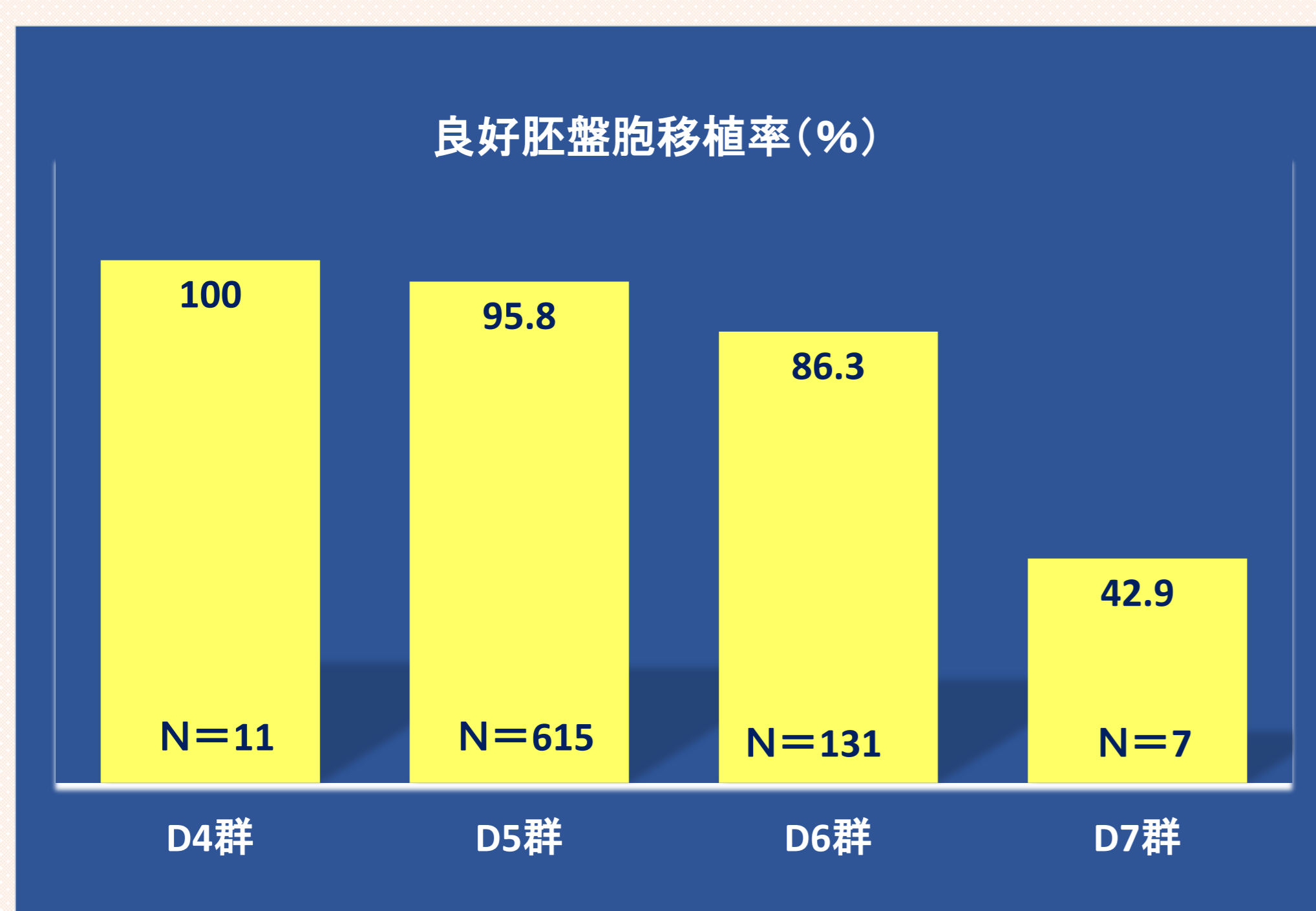


図1. D4群-D7群における良好胚盤胞移植率

III. 症例あたりの着床率はD4群81.8%(9/11), D5群65.4%(402/615),D6群42.7% (56/131), D7群57.1%(4/7)であった。良好胚盤胞を移植した症例における着床率はD4群81.8%(9/11), D5群67.1%(395/589),D6群46.0%(52/113), D7群 66.7%(2/3)であった。(図2)

臨床妊娠率においては、D4群63.6%(7/11), D5群53.3%(328/615),D6群35.1%(46/131), D7群14.3%(1/7)であった。良好胚盤胞を移植した症例における臨床妊娠率はD4群63.6%(7/11), D5群54.5%(321/589),D6群38.1% (43/113), D7群 33.3%(1/3)であった。(図3)

D4群においては全て良好胚盤胞を移植したため、着床率、臨床妊娠率共に差は見られなかった。D7群では、良好胚盤胞移植した症例における臨床妊娠率は高い傾向にあった。

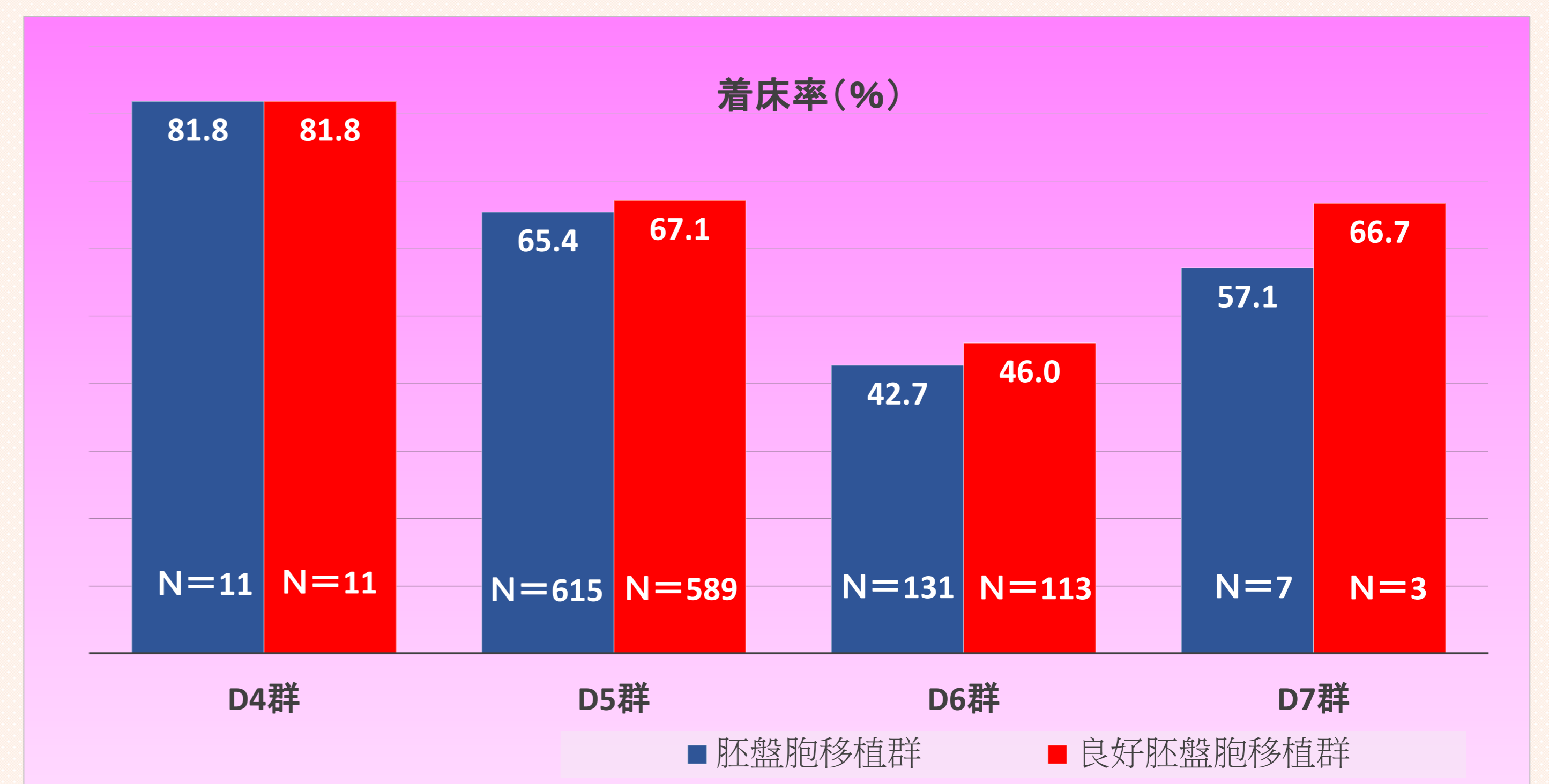


図2. D4-D7群の着床率において良好胚盤胞移植群との比較

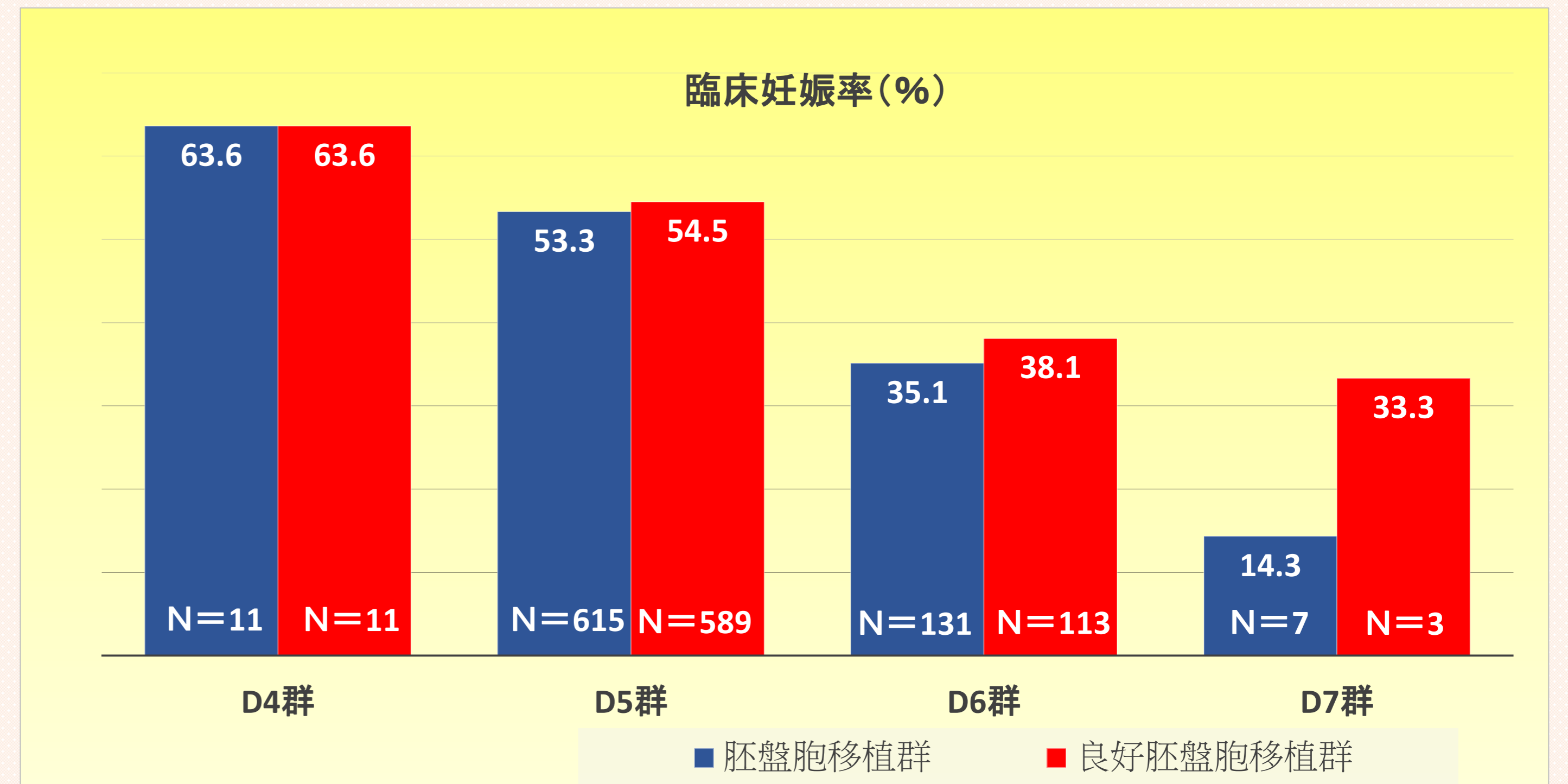


図3. D4-D7群の臨床妊娠率において良好胚盤胞移植群との比較

IV. D4群における妊娠判定陽性患者9症例のうち2症例はGSが確認できず、化学的流産に終わり、7症例は経過観察中である。D7群における妊娠判定陽性患者4症例のうち3症例はGSが確認できず、化学的流産に終わり、1症例は妊娠36週帝王切開にて2426g、健常男児を出産した。(表1)

	妊娠判定陽性	化学的流産	経過観察中	生産
D4群	9症例	2症例	7症例	
D7群	4症例	3症例		1症例

表1. D4,D7群における妊娠経過

[結論]

当院の胚盤胞移植での第一選択はDay5もしくはDay6での良好胚盤胞移植である。

しかし、今回の結果を踏まえて、タイムラプスにてDay4で胚盤胞に発育すると良好胚盤胞の確立が高く、着床率、臨床妊娠率もDay5,Day6の胚盤胞より高い傾向にあるので、Day4胚盤胞移植も第一選択として考慮していきたいと考える。

また、Day7胚盤胞移植でも良好胚盤胞であれば着床し、妊娠に至る可能性があり、現在1症例は出産まで至っている。よってDay7までの観察は有用であると考えられる。